



シルバーだより

No. 291

平成 26 年 9 月 1 日

荒川シルバー大学

荒川区荒川 3-49-1

岡田芳子

TEL 3801-5740

FAX 3801-5691

「ハチドリの一としずく」いま、私にできること

書道・金曜教室講師 八嶋セツ子

この物語は、南アメリカの先住民に伝わるお話です。

森が燃えていました。森のいきものたちは、われ先にと逃げていきました。でもハチドリだけは、いったりきたりくちばしで水のしずくを一滴ずつ運んで火の上に落していきます。

動物たちがそれを見て「そんなことをしていったい何になるんだ」といって笑います。ハチドリは答えました。「私は、私にできることをしているだけ」

という短いお話ですが、何度読んでも心打たれます。



私は書道・金曜教室を受け持って5年目になりますが、本当に楽しい教室になっているのだろうか。あれも書きたい、これも見たい、こんなことも話したいといろいろ思っている、何の役に立つだろうか、と再び「ハチドリの一としずく」を読んで励まされました。

「今私にできること」、教室の一人ひとりがハチドリになるように提案するのはどうだろうか。教室では今、学園祭の作品作りが始まっています。まだ何を書いてよいのかわからない。書けないと苦しんでいる声も聞こえますが、楽しんでいるようにも見えます。

今年も古典臨書中心で、書聖と呼ばれた王羲之の蘭亭序が人気です。細字で全臨する人もいます。

風流な楽しみが伝わってくるような蘭亭序は、端正で力強くのびやかで美しい。1500年以上も前から数多くの書家たちが臨書していますが、未だ王羲之の右に出るものはいないと伝えられています。

驚馬も千里、努力し続けていけば目標に近づき、駿馬も夢ではありません。

※蘭亭序とは

永和九年（353）旧暦三月三日、王羲之は41人の文人墨客を招き、曲水の宴を開きました。その時の詩集の序文を書いたものです。

「昭和の記録」を読み返して

・・・記憶がだんだん遠くなる・・・

蝉が鳴き始めた。今日も暑い日が一日中続くに違いない。

この時季になると何故か戦中・戦後の混乱した頃の情景が思い出される。私自身は幼かったが、経験したことが強烈な事、周りの変化があまりに急激だった事、故に良くも悪くも記憶に残っている。そんなことを思いながら、去年（H・25年）夏に皆で協力して冊子にした「昭和の記録」を手に取り拾い読みして見た。シベリアでの抑留生活・満州・朝鮮からの引揚げ・空襲・親や我が子の死・集団疎開、いろいろ悲惨な体験があった事、そしてあの昭和の大戦が如何に残酷であったかを、再び蘇らされた。最近の記事で再度知ったことだが、日中戦争以降、日本軍の軍人・軍属の戦死者約230万人のうち、6割が栄養失調や食料の窮乏で抵抗力をなくし、マラリアなどの感染症で病死した広義の餓死だったそうだ。輸送船など戦地に向かう途中、敵の潜水艦や飛行機の攻撃で船もろとも亡くなった海没死も30万人を数える。民間でも10万人以上にも及ぶ死者を出した3月10日の東京大空襲、勿論東京ばかりでなく地方の都市でも爆撃による多くの被災死者が出ている。そして最後に広島・長崎への原爆投下である。広島で14万人、長崎で8万人の爆死者をこの年に出したこの戦争が、どれだけ深い傷痕を国の内外に残したかを知らされた。そこで私たちは、あの戦争で亡くなった人々の「無念さ」を伝え続け、この「昭和の記録」に書かれた方々のつらい体験が「無」になってしまう事にならぬ様、努力をしなければならないのに！



近頃この悲惨な記憶が薄れてきては居ないか？ 「國を守る為なら・・・」 「この集団的自衛権行使容認の閣議決定は、必要最小限の範囲で憲法9条の下許される・・・」とか、「我が国と密接な関係にある国の若者が血を流して戦っている時、唯黙って傍観している国であって良いのだろうか、日本は・・・」など、戦争体験の風化は云われて久しいが昨今の政治家の議論を見ていると、その風化の影響は著しく大きなものがある。

戦争は些細なことで始まり大きく為るのは歴史が証明している、100年前の第1次世界大戦然り、昭和の第2次世界大戦も同様である。もし万が一の事が起こったらこの「昭和の記録」と同じ経験をした多くの人達は、死んでも死にきれぬ思いだろう。

「記憶がだんだん遠くなる」恐ろしい気がするのは私だけだろうか？

「昭和の記録」を再び読んで 平成26年8月5日

副理事長 宮澤 健一

花のある場所



お友達から、「元気になってネ」と温かい心と言葉をのせて、真っ白な胡蝶蘭の鉢が届いた。胡蝶蘭は生命が長いから、健康も長く続くようにと考えてくれたのだと、私は思った。

有難うと花に目が止まる度、心でつぶやく。自分の居場所から一番良く見える所に置いてある。お茶の時しみじみと見ていると、清らかで日本の心を宿して、上品な美を表現しているように思う。

広くもない部屋に色々な物が置いてあるのに、花の居る場所だけ静かな空気が漂って、私の心を落ち着かせてくれる。病氣ばかりしていると、自分の体に、「きょうはどう？」と話しかけているような気がして、「駄目だ、こんな事では負けてしまう」と言い聞かせても、体は思うようにならない。

目の前にある花は、与えられた時間を迷うことなく精一杯生きているのに。花に比べたら人間は生きている時間もぐーんと長い。

「このありがたい時間を有効に生きなければ」「85歳だってまだまだ」と思える朝でした。

広報部長 佐藤恒子

.....

教室紹介・・・今と昔の町歩き教室

深谷市散策

高崎線に輝く赤レンガの美しい深谷駅、一度は立ち寄りた名建築と思えます。また、明治初期日本経済の基礎作りをされた渋沢栄一先生の記念館や生家を見学、有意義でした。次いで当地の名門、大谷家を特別に見学させて頂き、贅を尽くした建築と庭園を拝見した上、大谷様と一緒に記念写真まで撮らして頂き、ご好意に感謝いたしました。

その他、滝沢酒造での地酒の試飲。中々いける方も多いようで、楽しい風景でした。続いて宿場町からの歴史を持つ旅館「きんとう」で豪華な昼食を戴き、楽しくてなごやかな一時を過ごしました。

また記念館では市長さんまでお見えになり、富岡製糸所と縁（ゆかり）の深い深谷の将来の発展と荒川区との友好を期待されていました。そして、シルバークラスの他の方々も、機会がありましたらお立ち寄り下さいますようにとの事でした。

今と昔の町歩き教室代表 酒井倫夫

相撲甚句全国大会を観戦して

6月7日に東京都江戸東京博物館に行ってきました。そこは全国から相撲甚句を唄う方々が集まっています。まず一番太鼓を（普段はやぐらの上でたたくのですが）ござを敷き、その上に座布団を敷き、延々と、てんてこてんてこと約10分位てんてこてんてこと打っていました。それから開会のあいさつ。

日本相撲甚句会代表理事、飯田美千代さんの会場に響き渡る相撲甚句は何とも言えない情感を生み出します。「相撲甚句の作詞や、太鼓の名手として脚光をあびた父（※永男）が旅立ってから早いもので2年が経ちました」というご挨拶がありました。

それから日本相撲甚句会、名誉会長さんのご挨拶、そしてエジプト、ダカハレヤ出身の大砂嵐さん（外国人最速出世記録保持者）を唄った相撲甚句を羽黒郷太郎師範が唄ってくれました。

相撲甚句は邦楽の一種（歌詞は七・七・七・五のの甚句形式）で日本全国の愛唱者によってその時々的事柄を埋め込んでいる。花、名所旧跡、見合い、結婚となんでも文になっている。聞いていてあきないです。とても素晴らしかったです。感動しました。

34班 安部世利子

◆◆◆◆◆ 学 園 日 誌 (8月) ◆◆◆◆◆

8月 7/31	8月常任理事会 役員会・学園祭の件	27-29日	研修旅行：諏訪湖湖上 花火・遊覧船・ぶどう狩りと 上諏訪温泉の旅
21日	朗読教室・発表会練習	宿泊先：	長野県・上諏訪温泉
25日	シルバーだより 291号作成		『RAKO 華乃井ホテル』
26日	広報部・編集会議	29日	学園祭共催依頼書提出

※ 事務局だより ※

◆朗読教室・第三回発表会のお知らせ◆

期日：9月25日（木）時間：午後2時より

会場：サンパール荒川 小ホール

（メールアドレス）arakawa-silver@tcn-catv.ne.jp

（ホームページアドレス）arakawa-silver.com/

（事務所）TEL 03-3801-5740 FAX 03-3801-5691



室長・田原